

## 第二章 情動は伝染する

## ◆なぜ「奇跡」は起こったのか？

いよいよ本格的に「LOVEインフルエンス～情動転写の技法」について説明して行きたいと思います。

そしてぜひこの「なぜ」という原理と仕組みをしっかりと覚えていただきたいと思います。

なぜなら、原理と仕組みという情報は詰まるところ一つの「ビリーフ（信念・思い込み）」だからです。

**私達は個人の意識というフィルターを通してしか、この世界を認識することができません。**

そして個人の現実を生み出している重要な意識のフィルターの一つが「ビリーフ（信念・思い込み）」なのです。

それは私達の「この世界の見方、とらえ方」を決めます。

認知科学の見地からすれば、私達は「信じたモノをこの世界に投影している」のです。

ですから原理と仕組みを理解するほどに、この技法はあなたにとって【**確かなる現実**】として機能しはじめます。

それでは前置きが長くなりましたが、具体的な「情動転写の技法」についてお話したいと思います。

「相手の無意識に介入して、好きという感情を書き込んでしまう」と言うと、なんだかオカルトチックに感じるかも知れません。

ですが実際には日常生活のなかでも、私達は無意識に影響しあっています。

「空気読めよ」

などと言う言葉を使ったり、聞いたりしたことがあると思います。

空気とはいったいなんでしょう？

それは「場に流れているある独特な雰囲気」です。

もしかしたら、その場にいる人間の「表情」だったり仕草などの【非言語】的なメッセージを読み取っているということもあるかも知れません。

ですが「気配」という言葉があるように、そういった【視覚情報】を超えた「第六感」的な情報を私達は日常的に感じ取っているわけです。

お互いがそんな「無意識の空気や雰囲気」といった情報を通して、色々な影響を与えあっているのです。

それはいわば【物理的なレベルよりも抽象度の高い情報】です。

もしそういった「情報空間」にアクセスして、自由自在に相

## 手に情報を書き込むことができたとしたら？

相手に様々な働きかけをすることができます。

昔からある「生霊現象」や「呪い」なども、同じ原理で説明できます。

そしてそれは、特別な霊媒師やスピリチュアルカウンセラーではなく、全ての人が日常的に意識せずとも行っていることなのです。

### ◆カウンセリングの現場で起こる「感情の転移」

「人の念や感情は伝染する」

暗い人と一緒にいると、こちらまでブルーな気持ちになってしまったことは誰しも経験したことがあると思います。

対面していれば、その表情や態度から「伝染してしまう」ことがあるかも知れません。

ですがそうでなくても、「同じ時間と空間」を共にするだけでも影響を十分に受けています。

「空気が張りつめる」などという表現があるように、同じ空間にいるとそれだけで影響を受けてしまうのです。

いわば「感情」や「念」といったモノは空気感染するということです。

**【情動感染】**とって、実際に人間の感情が伝染することは専門的な研究によって広く認識されています。

一番、その影響を受けているのが「精神科医」です。

基本的に精神科のカウンセリングには、心を病んでしまった人が訪れます。

そしてその「ネガティブな感情」を医師がもらってしまうのです。

実際に「世界で一番病んでいるのは、実は精神科医である」などと言われるほどです。

精神科やカウンセリングの臨床の現場では「感情の転移」などと呼ばれ、認識されています。

ただでさえ、私達は同じ時間と空間を共有すると「ホメオスタシスの同調」が起こります。

「ホメオスタシスの同調」とはここで言うならば、「生体的な同調」です。

一緒にいると食べ物の好みが似てきたり、トイレに行くタイミングが近くなったりします。

それは同じ種の仲間であるメンバーとして、集団生活を行う上で必要な生体的な同調です。

本来、自然の中で敵に囲まれながら生きていくには、同じ群れのメンバーが足並みをそろえて行動する必要があります。

「みんな一斉に逃げろ！！」

そんな時にトイレに入っているやつもいれば、食事中の者がいたりすれば群れのコンセンサスはバラバラになってしまいます。

そういった意味もあり、ある一定の時間と空間を共にする「仲間と認識された存在」と同調が起こってくるのは自然な生体的な反応なのです。

さらに「以心伝心」のように、生体的な反応を含めた【無意識レベルの情報の共有】……つまりは「共鳴」が起こってもおかしくはないでしょう。

「情動感染」とは、そういった意味でなにも特別ではないということです。

私達が太古から同じ種で群れを作り、意志の共有をしながら生きていくための自然な生得的に持っている機能なのです。

## ◆私の身体に起こった異変

実は私自身、長年の現場でのカウンセリングでそれを実感した経験があります。

それは「クライアント」である相手の感情や身体的反応を自分の体で感じるとい

う現象でした。

カウンセリング……と言っても、深いトラウマ的な感情を扱う身体心理学においては「感情＝身体的な反応」です。

つまりは「恐怖」とは、怖い体験をしたことによって起こる「胸がザワザワして身体が強張って震えだす」といった身体的な反応であるということです。

厳密には「感覚」と「感情」は違います。

ですがより原初的な【情動】というのは、そういった身体的な体験を伴うのです。

そして私達の行動や判断に大きく影響するのは、そういった「強い情動」なのです。

実際に恋愛で大きな感情的なショック体験をされると、「恋愛とは傷つく怖いものである」といった恋愛トラウマができるケースも少なくありません。

恐怖症のほとんどが、そういった体験にくっついてしまっている【強いネガティブな情動】によって引き起こされています。

恋に傷つき、色々な痛みを抱えたクライアント様にはそういったトラウマ的感情を持たれている方が少なくありません。

そしてそういったクライアント様たちとカウンセリングをしていくなかで、「勝手に身体が反応する」ということが起こってきたのです。

時にそれは「何てことのない他愛もない会話」でも起こったりしました。

ですが「身体が反応した」クライアント様に深くお話を聞いていくと、必ず大きな痛みや傷を心に抱えられていることもわかりました。

それは相手の心を強く感じようとすることで、より深いレベルの共鳴が起こった結果なのだと思います。

私の理性的な意識ではなく、感覚的な無意識が「相手の深い部分にある感情」をキャッチしたということです。

それに気づいてからは、私はカウンセリングで自分の身体をセンサーとして使うようになりました。

「あ、でも大丈夫です」

そう言われるクライアント様でも、私の身体が反応すれば「本当は痛みを抱えている」ということがわかるようになりました。

そして逆にセラピーを行って癒しと解放がクライアント様に起こると、私の身体が楽になるということにも気づきました。



つまりは「完全に相手と共鳴した状態で、自分の身体に働きかけることで癒しと解放を起こせる」という答えにたどり着いたのです。

「自分の身体に癒しの感覚を生み出して、相手に共鳴させること」

セラピーの奥義は実はここにあります。

技法は色々ありますが、本質的にはあまり関係がありません。

深いレベルでの共鳴を起こして、癒しを転写できれば実質上のセラピーは成功するのです。

今これを読んで、「カウンセリングやセラピーの話はいいから、大好きなカレを恋に落とす方法を教えて」と感じられているかも知れません。

ですがまさしく原理は同じなのです。

「大好きなカレと深いレベルで共鳴を起こして、強い恋愛の情動を転写できればゾッコンにさせることができる」ということです。

## ◆ミラーニューロンという神経システム

もう少し感覚的なことではなく、具体的な説明をしたいと思います。

先ほど説明した「ホメオスタシスの同調」ということもありますが、それとは別に共鳴を起こす神経細胞を私達は持っています。

それが「ミラーニューロン」です。

別名「モノマネ細胞」と呼ばれています。

ミラーニューロンは霊長類などの高等動物の脳内で、他の個体が行動するのを見た時に、自ら行動する時と同じ活動電位を発生させる神経細胞です。

つまりは他の個体の行動を見て、まるで自身が同じ行動をとっているかのように“鏡”のような反応をしてしまうということです。

「見よう見まね」などと言う言葉があります。

実際に赤ちゃんが言語を習得したり、歩行したりする学習の過程ではミラーニューロンの働きが大きく影響していると言われています。

つまり私達は意図しようとしまいと、同じ空間にいただけで相手と合わせ鏡のように同じ反応が神経システムに起こっているということです。

神経細胞は電氣的な信号を文字通り「発火」させることで情報を伝えます。

私達は微弱ながら生体的な電氣的エネルギーによって、色々な活動をしているということです。

これはあくまで私の仮説ですが、そういった「電氣的な信号」は空間を伝わって相手にも影響を与えているのだと思います。

今やほぼどこにいてもスマホやケータイでつながれる時代。

そういったことを考えれば、サイエンティフィックに考えてもあり得ないこと

ではありません。

「テレパシク」に伝わる「以心伝心」もそういったことで説明ができます。

「ホメオスタシスの同調」などの生体的な同調が起これば、より電波的な脳波の信号は伝わりやすくなるでしょう。

ということは、原理的には「相手の脳の指示系統」に割り込むことができるということです。

エアコンやテレビのリモコンでも、同じ機種であれば隣の部屋でも動かすことができます。

それと同じように、生体的な同調を起こして周波数が同じになれば「相手の意識も動かすことができる」と言えるのではないのでしょうか？

## ◆脳のなかの情報は共有される

実際にそういったことで、私達の「脳内情報は共有される」と言えるわけです。

カウンセラーの大島信頼氏は著書「ミラーニューロンがあなたを救う！ 人に支配されない脳をつくる4つの実践テクニック」の中で同じことを述べています。

実際に心を通い合わせた仲間内な友人との会話では、「あ、アレね」「そうアレアレ」などと言ったことは日常的にあると思います。

つまりは「アレ」という脳内のイメージをお互いに言語を介さずに

共有しているわけです。

それは「映像的なイメージ」だけに限りません。

言葉や音、質感であったり空気感のようなものであったり……

それはベティ・エドワーズが「右脳で描け」で定義している「Rモード」と呼ばれる【右脳の言語】全てを指します。

特に言語化どころか、映像的なイメージ化すらできないけれども「確かに感じている実感」という【感覚的な質感】のことも多いはずで  
す。

脳科学ではそういった感覚的な質感を「クオリア」と呼んでいます。

言語化やイメージ化すらできないけれども、お互いにハッキリと暗黙の共通認識を実感しているのは「クオリア」を共有しているからです。

「息が合う」などと言うのも、ただタイミングやリズムが合っているだけではありません。

次にお互いに起こりうる「空間的な一歩先のイメージ」を共有しているからこそ、スポーツなどでも信じられないコンビネーションが生まれるのだと思います。

「情動転写の技法」では、まさにこの【脳内情報の書き込み】を意図的に行って行きます。

そしてここまでお伝えしてきたことを踏まえて考えるならば、それは原理的に可能であるということもご理解いただけたのではないのでしょうか。

## ◆虫の知らせと「百匹目のサル現象」

「会えない状態から三十五日で復縁できた」という事例を第一章でご紹介しました。

「確かにミラーニューロンやホメオスタシスの同調で感情を伝染させられるのは理解できたけど、遠隔はどう説明するのか？」

もしかしたら、そのように感じられているかも知れません。

ですが私達の「脳内情報の共有」や「感情の伝染」といったことは、距離的な空間の制約を超えて働くのです。

「百匹目のサル現象」という有名なお話があります。

船井幸雄さんのご著書である、「百匹目のサル～思いが世界を変える」で紹介されて有名になったお話です。

宮崎県串間市の石波海岸から二百メートルほど離れたところに、「幸島（こうじま）」と呼ばれる小さな島があります。

まず、群れのなかから一匹のサルが好物であるサツマイモを洗って食べるという行動を起こしました。

そして次第にそれをマネするサルが周りに現れて、周りのサル達に広まって行きました。

ある日、幸島でサツマイモを洗うニホンザルが百匹を超えたとき、不思議な出来事が突然起こりました。

それまで数年かけて少しずつ広まっていった芋洗いが、百匹を超えた途端、まるでテレパシーでも使ったかのように幸島の群れ全体に一瞬で広まったのです。

しかも驚くべきことに、芋洗いは幸島から二百キロ以上も離れた大分県の高崎山の猿の群れや、そのほか日本全国にあった猿の群れにも広まっていたとのことです。(空間的にも物理的にも大きな隔たりがあり、交流など全くなかったのにもかかわらず)

「ある思想や意識なども同じく、ある一定の人たちが愛と思いやりに目覚めれば、それは全体に伝わる」といった法則性として、引き合いに出されるお話です。

実際にはネタ元である生物学者のライエル・ワトソン博士自身が「法則性を説明するために創作したメタファー（例え話）」だとも言われています。

ですが昔からある「虫の知らせ」は同じく、空間的な制約を超えて意志を伝播します。

それは「ホメオスタシスの同調」や「ミラーニューロン」と同じ理由から起こるのだと思います。

「私達は同じ種や仲間内で重要な情報を、距離や空間の制約を超えて共有できる」のではないかということです。

実際に私達の遺伝子情報には、世界中の全ての種と人類のデータが潜在的に共有されていると言われます。

それは危機を回避するためや、生存に関する重要な情報を全体で分かち合うシステムであるということが【種の保存の原理】からみても理解できます。

私達の遺伝子のプログラムの最優先課題は「生存」と「種の繁栄」です。

ユングの「集合的無意識」という観点からも、私達が物理的な制約を超えて無意識レベルで情報を共有できるというのは十分に考えられます。

「世界を代表する24人の科学者」としてニュートン誌でも紹介されている理論物理学者であるミチオ・カク博士によれば、「念力やテレパシーはすでに世界的に研究されて実用段階として使われている」と述べられています。

むしろそういった存在を「あるなし」と論議すること自体が、古めかしい時代遅れの最先端の科学を理解していないということなのかも知れません。

## ◆自然と感情や脳内情報の共有は起こっている

実際に人が集まると「場」ができます。

それは「空気」と呼ばれたり「雰囲気」と呼ばれたりします。

無意識レベルでの影響を与えあっているというわけです。

文化人類学者であるグレゴリー・ベイトソンは「複数の人間が介したとき、言葉を発さなくてもコミュニケーションは行われている」と述べています。

つまり私達は、「存在」としてそこにいるだけで、場になんらかの影響を与えているということです。

有名アーティストのコンサート会場は異様な熱気で溢れています。

まだライブがはじまっていなくても、大勢の人が集まってきただけで【期待と興奮】という情動のエネルギーに場が包まれます。

時代の空気、世代間の意識、共有する価値観やビジョン……

私達は意識というデバイスを通して、そういった物理レベルを超えた情報を共有しているのです。



人間の脳波は電位を帯びた信号を文字通り「発火」させることで情報を伝達します。

そして私達の住んでいる地球上は電磁的なエネルギーフィールドで覆われています。

地球という星は北極と南極というS極とN極の磁場を持った【巨大な磁石】です。

ネガティブな人類の意識が自然災害や噴火などを引き起こすと言われているのは、そういった地球のエネルギーフィールドの磁場に影響を与えるからです。

満月の夜に犯罪発生率が増えることや、出産する妊婦さんが増えるというのは昔から言われています。

それは満月のエネルギーによって人間の脳と神経に影響が及ぼされるからです。

典型的な物語は「狼男」でしょう。

満月の時に月と太陽の黄経差は百八十度になります。

ホロスコープでいう「衝（オポジション）」であり、四柱推命では沖（ちゅう）にあたるハードな位置関係です。

太陽の光を真正面に受けた月は、金星の約千九百倍の光量で輝きます。

地球は月と太陽に挟まれた形で、その電磁的なエネルギーと引力や光が降り注ぐ影響に強くさらされます。

おそらく地球上の磁場やエネルギーフィールドに少なからず影響を与えるのは想像に難くないと思います。

そんな満月のエネルギーとまではいかないかも知れません。

ですが私達の発する意識的な念や脳波といったエネルギーも、地球上の電磁的なエネルギーフィールドを介して影響を与えあっているということなのです。

### ◆リモートビューイング～空間を超える意識

リモート・ビューイングという言葉聞いたことがあるでしょうか？

千里眼、遠隔透視とも呼ばれます。

隠されていたり、離れた場所にある物品や建物などの情報を何らかの視覚的感覚、もしくは直感やイメージで正確に判別したりする能力のことです。

リモート・ビューイングは、1970年代にSRI（スタンフォード研究所）や米国陸軍などで行われた、二重盲検法など特定の手順に従って透視を行うことを指します。

ですので、厳密に言うとは一般的な透視とは別物とされています。

アメリカ合衆国の諜報機関は、スタンフォード研究所の成果に注目し、資金を投

入して実験を続けさせました。

数々の実験の結果、この能力は教えることができるだけでなく、トレーニングをすることで高められるとわかったのです。

1980年代には、トレーニングを受けた最初のリモート・ビューラーのチームが、アメリカ陸軍遠隔透視部隊から派遣されています。

このチームは、冷戦中、国防上重大な情報を提供していたと言われています。

1970年代に実験が始まった米陸軍の遠隔透視部隊の作戦は、湾岸戦争まで極秘裏に行われていました。

この10年ほどに、さらに研究や応用が進み、リモート・ビューイングの精度が高まったと言われています。

プロのリモート・ビューアーらは、ターゲットについて、かなり高い精度の情報を提供できるようになっています。

国家的なプロジェクトとして資金を投じて、そういった研究を継続的に行ってきたわけです。

そして実際の諜報活動の中で、実用レベルで成果をあげてきたということです。

これは私達に何を示しているのでしょうか？

「百匹目のサル」は存在するという事です。

仮にライエル・ワトソン博士の話が創作だったとしても、原理的には私達の「脳とココロ（潜在意識）のネットワーク」を通して情報をやり取りできるということが証明されたわけです。

理論物理学者であり世界のトップサイエンティストであるミチオ・カクが言う、「もうサイキックな能力は実証済みで実用段階として使われている」というのはそういうことなのです。

そう考えると、私が発見した「情動転写の技法」はそれほど「トンデモ」なことではないと言えます。

生得的に私達にはそのような潜在的な能力が眠っているということなのです。

### ◆答えはズバリ「波動」です

では私達は物理的空間ではない情報空間で「なに」をやり取りしているのでしょうか？

そういった謎を全てつなげて解き明かしてくれるキーワードこそが「波動」なのです。

私達の脳と神経は電気信号のパターンによって、情報を伝達します。

それは例えるなら「モールス信号」のようなものでしょうか。

そこには特有のパルスがあり、波長のパターンが生まれます。

つまりは「波」…エネルギー的な波動が存在するという事です。

人の念や思いにも電氣的なパルスが存在し、様々な波長のパターンを生み出します。

それは電子よりも小さなクォークやプラズマ、もっと微細な素粒子や最小単位である「超ひも」などといったエネルギーの波動かも知れません。

それらは古来「プラーナ」や「氣」などと呼ばれ、宇宙と生命の源となるエネルギーとしてヨガや気功などで扱われてきました。

宇宙に漂う純粋なエネルギーである波動は、例えるなら「空のUSBメモリー」のようなものです。

さらには情報エネルギーを伝える「媒体」の役割も果たしています。

LOVEインフルエンスではこの「空のUSBメモリー」とも言える波動に、【ある特定の情動エネルギー】を転写して相手に飛ばします。

それは主に内的なイメージや感覚を使って行います。

「場の空気」や「その人の持つ雰囲気」といったものも、詰まるところは【波動的な情報】ということです。

それが場の空間に広がって、その場に漂っていた「空のUSBメモリー」に色々な情報を書き込んで存在しているわけです。

となれば、相手の意識的なエネルギーである「空のUSBメモリー」に、「自分を大好きでたまらない情動」を書き込めば良いということです。

または一緒にいる彼の周りの空気を同じく「自分を大好きでたまらない情動」の波動にしてしまっても良いでしょう。

そうすれば、彼の周りに漂っている波動が媒体となって、今度は彼の意識に「自分を大好きでたまらない情動」というデータを転写してくれるはずです。

こう書いていると都合の良い「机上の空論」に思えてしまうかも知れません。

実際に残念ながら、通常のこういった内容はまさにそういった「机上の推論」であることも多いです。

ですが第一章でもお伝えしましたが、これは「現場で色々な結果を出してきた実用レベルの技術」です。

むしろ「論理」ではなく「今までの実際の経験」を元に、その仕組みと原理を解説しているのです。

それはある意味「自転車の乗り方」に似ています。

一度自転車に乗れてしまえば、自由自在にどこへでも行くことができるでしょう。

ですがその原理的な意味を物理学などの数式で説明するならば、かなり複雑で困難になるはずですが。

私が今試みているのは、そういったことなのです。

ですが公式を割り出せば、数学の方程式と同じく多くの人が使えるようになります。

次はあなたがこの技法を使って、その恩恵にあずかれるということです。

## ◆神の声が聞こえた瞬間

そういったことで、私はこの技術を使って様々な恩恵にあずかってきました。

ただ当時はこのように原理と仕組みを説明できたわけではありません。

ですが自分なりにつかんだ感覚を頼りに「コツ」らしきものを磨いていったことで、同じような結果を再現できるようになりました。

ですからここまで読んでみて、「なんだか難しそうで自分にはできな

さそう」と感じていたとしても大丈夫です。

この本はサイエンスフィクションでも、面白おかしい読み物でもありません。

あなたが手に取って実際に活用することで、大好きな彼のハートを射止めるための具体的な指南書なのです。

ではなぜそこまで、原理と仕組みを説明したのでしょうか？

それはこういった技術は「視覚化」「見える化」がしづらいからです。

実際にやるにあたっては、非常に感覚的なことになります。

ですから見よう見まねで形だけやってみても、「うまくいってるのか、いってないのかもサッパリわからない」ということになってしまいます。

自転車よろしく「練習して身につく技術」ですから、当然はじめからうまくいくわけではありません。

それは催眠や心理コミュニケーションの技術でも同じでしょう。

ですが、はじめに「原理と仕組み」を理解しておけば、「今どうしてこれを行っているのか？」ということ意識して取り組めるはずです。

この「意識する」ということが全てです。

「なんとなくイメージする」のと、「場に漂っている波動のエネルギー



一を変えていく」と意識するのでは効果が全く違ってきます。

そもそも「意識の働きかけ」が根本から違います。

私はこの技術を体験的に進化させながら身に付けてきました。

今思えば、よくここまで感覚だけで体得できたのだと我ながら感心します。

ですがそれはもしかしたら、私の意志なのではないのかも知れません。

もっと大きな宇宙というシステムの【情報場】から降りてきたものなのかも知れません。

それはあなたが「神の声」と言っても良いのかも知れません。

そして今度はあなたが「神の声」を聴くことになるでしょう。